

ラジオ放送「福音の光」説教 「主を知ることが求めよう」

ホセア書6章1～3節、マタイの福音書1章 1～17節

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「私たちは、知ろう。主を知ることが切に追い求めよう。主は暁の光のように、確かに現われ、大雨のように、私たちのところに来、後の雨のように、地を潤される。」(3)

新年明けましておめでとうございます。ホームページにて皆様方とお目にかかれることを喜んでおります。拙文ですがおつきあいいただければ幸いに思います。

「一年の計は元旦にあり」とありますが、皆様方はどんな計画を立てられたでしょうか。私たちの教会では新年から新約聖書の初め「マタイの福音書」から読み始めることにしました。さて先ず聖書を手にして一番困ることは、聖書の最初の部分にカタカナばかりが出てくることです。これはイエス・キリストの系図であります。「アブラハム(BC2000年)の子孫、ダビデ(BC1000年)の子孫」としてメシヤであるイエス・キリストが誕生したことが明らかにされているのです。

ふつう人間の系図を考える場合、良い人の系図は残しますが、自分にとって不都合と思える部分は抹消したくなります。しかし聖書にはその人間の心理に反するように「罪にまみれた人間の現実」が名前を通して明らかにされているのです。たとえば男尊女卑の時代に、その系図の中に4名の女性が登場します。タマル、ラハブ、ルツ、バテシバ(ウリヤの妻)ですが、何れも模範女性であると言うよりもいわく付きの女性であるのです(具体的には述べることは出来ませんが…)。その他にも男性の中にも罪の歴史が明記されています(例えばダビデ)。その子孫としてイエス・キリストは誕生されたのです。イエス・キリストという御方は罪人の歴史の中に生まれ、罪を解決するために来られたメシヤであることが明らかにされているのです。「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」(1:21)とある通りです。今年1年、このような一人一人のメシヤ(救い主)としてお生まれ下さったイエス・キリストをもっと知りたいと思って聖書を読んでみようではありませんか。一緒に聖書を読み続けましょう。

聖書に約束されているように神様からの豊かな恵みと祝福、生きる力と勇気を与えられて行くに違いないと確信しております。皆様方の上に豊かな祝福をお祈りいたします。